



見て得 知っ得

きたかんと

今回はワイド特別版として「くるま旅」ではなく、「てつどう旅」。北関東3県を横断するJR水戸線・両毛線沿線の観光スポットと「裏技」を紹介する。
(斉藤勝寿)

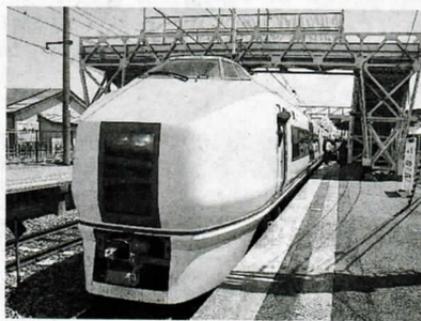


藤の季節に懐かしの特急走る

水戸線は友部駅(茨城県笠間市)から小山駅(栃木県小山市)までの50・2キロ。両毛線は小山駅から新前橋駅(前橋市)まで84・4キロ。筑波山、太平山、赤城山など北関東を代表す

る山々を眺め、鬼怒川、渡良瀬川、利根川を渡り、北関東の田園風景が満喫できる。

北関東を結ぶ両線だが、直通の定期列車は、利用客が少ないため約20年前に廃止された。現在あるのは、栃木県足利市の大藤が見ごろとなるゴールデンウィークに臨時で走る「足利大藤まつり号」。5月5日に乗車し



JR富田駅に到着した臨時直通列車＝栃木県足利市

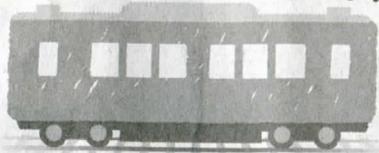
てみてびっくり。かつて常磐線を走行していた特急「スーパーひたち」の車両だったのだ。とても懐かしい。ホームでもカメラを向ける人が多かった。

ファンのみどころは小山駅。水戸線と両毛線の線路は離れているため、どうやって入線するのか。列車は水戸線のホーム出発後、しばらく宇都宮線と並行して走り、宇都宮線の上下線を横断して両毛線に。なかなかダイナミックな体験だった。

初乗り料金が一周

駅から出なければ水戸線・両毛線を初乗り料金で楽しむことができる。大都市近郊区間内のみを利用する場合の特例で、隣の駅に行くのに重複・途中下車しなければ、実際の経路にかかわらず、最も安い運賃で乗車することが可能といったものだ。

今回は **てつどう旅**



ワイド

JR水戸線・両毛線

3県横断 歴史・文化に触れる



国重要無形文化財「結城紬」の工程を見学・体験するなら水戸線東結城駅(茨城県結城市)。徒歩約5分にある「市伝統工芸館」は、今年2月にリニューアルオープンしたばかりだ。繭でつくった真綿から糸を引き出す「糸つむぎ」と、全身を駆使して織り上がる「地機織り」を記者も体験。細やかな作業の連続は手作業の極み。茨城県本場結城紬織物協同組合所属の伝統工芸士、植野智恵さん(69)と岩田和子さん(53)が丁寧に教えてくれた。模様のもとなる「拵くり」も見学可能だ。今年からスタートしたのが地機体験。半日コースでコースターを織り上げる(有料)。組合の外山正美理事長は「地機織りの体験ができるのは当施設のみ。結城紬の伝統技術をぜひ体験してほしい」と話している。また、隣の結城駅にも観光案内所などがあり、結城紬の着心地が体験できる。問い合わせは市商工観光課(0296・34・0421)へ。

- ① 伝統工芸館では結城紬の糸つむぎ、地機織り、拵くり(左から)が体験・見学できる=茨城県結城市
- ② 小江戸情緒にあふれた遊覧船=栃木県栃木市

地機織り楽しんで

東結城駅

小江戸情緒を舟で

栃木駅

蔵が並ぶ古い街並みを舟から眺めるなら両毛線の栃木駅(栃木県栃木市)。歩いて10分ほど、巴波川にかかる巴波川橋のたもとに遊覧船のりばがある。

土蔵に面した巴波川を上って下って約20分。ちょっとした舟遊びと小江戸情緒が堪能できる。船頭さんの軽妙なトークも人気だ。船頭マネジャーの中村明雄さん(59)の船に同乗させてもらった。「船は小さいですけ

ど、大船ののったつもりで」のっけからおやじギャグが飛び出して船内は和やかな雰囲気。最後には船頭歌を高らかに歌って大きな拍手を受けた。

NPO法人「蔵の街遊覧船」が運営している。船頭は全部で12人。会社を早期退職した中村さんは仲間を誘われて船頭に。「船の上では自分のワンマンショー。自分でも気持ちいいし、お客さんに喜んでもらえればなおうれしい」

毎日運航。大人700円。問い合わせは蔵の街遊覧船(0282・23・2003)へ。

